

技術革新と商業化強力に推進

北海道は室蘭市や釧路市、苫小牧市など過去に主要重工業の中核だった都市が多く残っている。千歳市周辺には半導体の新たな産業集積が構築されつつあり、これらの都市と連携を図り、道内全域において宇宙産業を育成することが重要といえる。

小田切 義憲

スペースコタン株式会社
代表取締役社長兼CEO



全日本空輸にてオペレーション部門を経て、2011年エアアジア・ジャパンに参画、翌年社長就任。2016年ANA総合研究所。2021年より現職。

北海道は室蘭市や釧路市、苫小牧市など過去に主要重工業の中核だった都市が多く残っている。千歳市周辺には半導体の新たな産業集積が構築されつつあり、これらの都市と連携を図り、道内全域において宇宙産業を育成することが重要といえる。

日本人的食を支える北海道の成長を止める訳にはいかない。宇宙産業だけではなく、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進、自動運転、1次産業の高度化などを並行して進め、北海道で安心して生活できる安定的な基盤を構築することを期待したい。

生産を目指すラピダスは千歳市を中心に「北海道バレー」を作る構想がある。産業集積は大樹町も同じ。経済界は、北海道スペースポートを核とした航空宇宙関連産業の集積を支援する。研究開発やビジネスを促進し、雇用や観光など人口増加をもたらし発展する「宇宙版シリコンバレー」の実現を「オール北海道」で取り組み、目指していきたい。

10〜20年後の道内宇宙産業にどんな夢を抱いているか。

小田切 北海道は、国内他地域と比較して人口減少の速度が早く、45年には約25%が減少する見込みとなっている。人口減少を最小限に抑制するためには新たな基幹産業である宇宙関連産業を北海道に定着、進化させることが大変重要。東名阪などの主要都市からの人口流入を加速することで補完可能と個人的には考えている。

藤井 道経連では21年に「2050北海道ビジョン」を公表した。そこでは自動運転や空飛ぶクルマ、スマート農業などが日常的に使われ、身近なものになっている。これらの多くは、宇宙産業と密接につながり、衛星データを利活用したものは60%以上に及ぶ。衛星データによって、とても便利な世の中になっていると想像できる。

できるものなら、宇宙旅行も行ってみた。道内のスタートアップ企業岩谷技研の将来構想では、成層圏まで気球を飛ばし、星や地球を眺めて約4時間で行って帰ってくるそう。ロマンがある。青い地球を見れば、地球に住んでいることの素晴らしさ、大切さが身にしみて実感できると思う。

クリエイティブとテクノロジーで映像の未来をつくる。

IMAGICA GROUP

ROBOT COMMUNICATIONS INC.

IMAGICA IRIS

P.I.C.S.

OLM, Inc. OLM Digital, Inc.

IMAGICA infos Publishing & Imageworks

EEX IMAGICA

IMAGICA ENTERTAINMENT MEDIA

CINEMACONNECT

PIXELOGIC

PPC

IMAGICA

COSMO SPACE

weather map

IMAGICA GEEQ Global Gaming Service Company

IMAGICA DIGITAL ESCAPE

ALO IMAGICA ALOBASE

SH KIKAKU

Photron

i-Chips

ipmotion

Photonic Lattice

IMAGICA LIVE

IMAGICA GROUPは、北海道宇宙サミット2023を応援しています